

マツ並木のアカマツの根の張りを知る

今回は、笠取峠のマツ並木保存管理計画策定にあたって実施したアカマツの生育状況を把握する調査の中で、根の張り状況を確認する根系調査の概要をお伝えします。

アカマツの根は、横に伸びる水平根と、下へ伸びる垂下根に大きく分けられ、水平根は地表に沿って横へ伸びていきます (下図「アカマツの根系図参照」)。また、いわゆる根張り部分が見えないと生育不良が起きやすくなると考えられています。アカマツの生育状況を把握する中で、根の張り状況を確認する根系調査において、水平根の状況及び深植えにより根が上向きに生えている様子を確認することができました。



● 調査木の根の張り状況



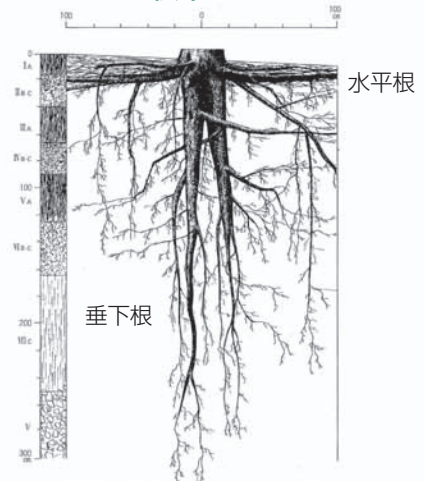
根系調査2のアカマツは、土塁と同方向に水平根を伸ばしていた。(調査1のアカマツも同様) なお、調査1のアカマツは、深さ30cmでは径2~3cm程度の細根のみ確認できた。

● 深植えによる根の状況



根系調査2のアカマツの根は、約40cmの深植えのため、径6cmほどの根が空気を求め上向きに生えている。深植えを解消していく必要がある。

● アカマツの根系図



出典：最新樹木根系図説
荻住昇著、2010年11月